

今後の小・中学校の教育環境整備と再編 に関するご意見と市の回答（要旨）

地域座談会：令和2年11月17日～11月20日

ご意見の募集期間：令和2年11月17日～12月10日

令和2年12月24日

佐渡市教育委員会 教育総務課

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
金井	「新たな学校教育環境整備計画」は、佐渡市の新しい人口減少対策などを踏まえて計画を立てているのか。	人口が非常に少なくなり複式の学校が今後10年のうちに増えていくことから、当計画と併行して進めていかないと対応できないと考えている。
	佐渡市教育委員会として、中等の存続に対する計画は考えているのか。	高校も含めた新しい学校について、市全体で検討している。
	小規模校、適正規模校の定義を教えてください。	国と県では小・中学校とも12学級以上18学級以下を標準としている。
	アンケートに「子ども達の夢」は集計されているのか。プランニングするためには大切ではないか。	この後の計画づくりを進める中で検討していきたい。
	今回の資料は漠然としておりもどかしく感じる。どの学校が統廃合の対象になるとか分かると、ものが言いやすい。	全体計画をお示ししている段階であり、これから個別計画としてシミュレーションをしていく必要があると思っている。いろいろなご意見を踏まえながら、検討懇談会の中で最終的にまとめていくという流れである。
	学校再編の結果分析は直近に統合した2つの小学校の案件だが、例えば河原田小と沢根小が統合したときの沢根地区の方の意見がどう変わったかというようなデータが見たい。	統合する側と統合される側とに分けての集計作業は行っていない。
	100%回収の方法でやらないと本当のことはわからない。今後はそのようにしてもらいたい。	今後は回収率の向上が図られるよう工夫して進めていきたい。
	計画に先生の負担とか心理分析は集計されるのか。負担の度合いとかの調査はしているのか。	現状として学校間連携に取り組んでいないことから、今後、必要であれば改善に向け調査したい。
両津	全国の離島での状況を資料として載せていないのか。	佐渡市は非常に大きな離島であり、他の離島と状況が違っていると判断しているので、全国の離島でまだ実施していない学校間連携を含め、統合ないし存続を検討していった方が良いだろうと考えている。

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	離島振興法の改正に伴い、教職員の配置に関する法律も離島に配慮され増員されていると聞いている。異動の特例枠は適応できないのか。	離島枠はいただいているが、佐渡市は小規模校が多いことから、県内の他所と比べ、加配がかなり多くなっているのではないかと考えている。
	今までの学区の考え方をもう一度考慮してみてはどうか。	学区制度や地域とのつながりに配慮しながら、隣接学区について柔軟にできるか検討していきたい。
	遠くに住んでいる子どもが休日に遊ぶ場所や、その保護者の送り迎えの負担のケアはどうするのか。統廃合に絡んでその場所をどういうふう確保していくのかなど、具体的な学校の時間以外での子どもの過ごし方や保護者のサポートの手だてを教えてください。	どのような支援が出来るか、住民の皆さんとしっかりと話し合いをしながら、サポートしていかなければならないと考えている。
	規模や形態の特色は理解できたが、地域環境下の特色が盛り込まれていないのはなぜか。	地域がどういう状況でという分析は行っていない。子どもの数を中心に、学校の教育条件などについて計画の中に入れていくつもりである。
	誰にでもわかる佐渡の教育イメージの作成をお願いしたい。	教育大綱及び教育振興基本計画を作成し、PRに努めているが、パンフレットの作成には至っていないので、予算化も視野に検討していきたい。
	前浜小学校へ岩首から来ている小学1年生は、入学したてのところ1時間くらいバスに揺られてくると、学校に着くまでに弱って、1時間目や2時間目は授業にならないという話を聞いた。	学校がある地域でも過疎化が進行しており、極小規模校が存在しているところもある。子ども達の明るい未来と健やかな成長を図るため、どういう環境で育てていくか、地域も含め市全体で考えていく必要がある。
	遠い地域で若いお父さんとお母さんは子育てをしなくなり、その結果、その地域は過疎に追い込まれる。学校教育という名のもとに学校を削っていった結果、その地域が死んでいく。学校統合という問題は、地域の凹み（へこみ）、過疎少子化を助長する側面があることを忘れていただきたい。	

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	<p>地域の実感として、大分統合が進んで、子どもたちの通学時間も長くなって、これ以上の統合は難しいというような感覚をお持ちの方もいる。その場合はチェーンスクールで、どのくらい特色を出していけるかということになってくる。再編とチェーンスクールの部分の意味づけはどのように考えているのか。</p>	<p>1校当たりの児童・生徒数からみて、統合は予想以上に進まなかったと分析している。今後は通学距離や通学時間において、統合できるところは統合をお願いし、統合が困難な場合にはチェーンスクールにより教員が複数校を兼務する形態にするなど、子ども達により良い環境を提供できるよう検討していきたい。</p>
	<p>学校統合の素案はあるのか。無いとしたらどの時期ぐらいまでに作るのか。</p>	<p>まず地域座談会で計画の考え方を市民の皆様にお伝えし、そこでいただいたご意見も参考に検討懇談会で素案を作成していく。令和3年2月から4月頃に向け、市民説明会やパブリックコメントを実施した後、検討懇談会から教育委員会に計画案を提言する予定である。</p>
	<p>統合することによって、一人ひとりが活躍できる場や時間が減少することが大きなデメリットではないか。学区の見直しも柔軟に考えて、全て大きいところへ小さいものを集めてしまうやり方は間違っていると思う。子どもたちの活躍できる規模を考えてもらいたい。</p>	<p>全体の行事の中で全員が役割をさせられるように、学校の中でも細心の配慮をしている。小さな学校から大きな学校に必ずというわけではなく、小さな学校どうしの連携も現段階では可能かと思われるが、その中でも学校施設や通学距離からみて、どこが最適か検討していく必要があると思っている。</p>
相川	<p>学校間連携プランで、中学校拠点校や小学校拠点校になった場合、特別支援学級は、その拠点校だけに設けられる計画になるのか。</p>	<p>拠点校だけに設置されるのではなく、就学希望した学校に設置される。</p>
	<p>佐渡市全体で移住者を増やしたい方向性があると思うが、移住者に向けてのアピールの観点が入っていないように思う。</p>	<p>地区が中心となっている取組に市として支援するなど、協力しながら進めている状況であり、具体的に数字としてお示しできないところもあるため、当計画の中では反映していない。</p>
	<p>小規模校の方が地域の方の協力でいろんな体験ができたりしてうらやましいと思う。地域の方の力を借りて教育を作っていくことも大事だと思うので、このあたりのことも計画の中で考えていただきたい。</p>	<p>地域学校連携事業やコミュニティスクールを中心に、学校と地域をつなげようという動きをしている。その中で地域の方に協力していただけたところはお願いしていきたい。</p>

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	1人の先生が他校に渡って授業を行う場合は担任の先生は配置されないのか。	各学級には担任が配置される。なお小学校に専科の先生が配置された場合にその先生が兼務したり、中学校で複数の免許を持つ先生が不足し、規模の大きい学校の先生から兼務いただいたりしているのが現状である。
	分散型学校間連携とは、距離的に離れた小中の小規模校の間で、どこかの学校の先生が主になり授業を進めたり、ウェブでつながるといったイメージでよいか。	徳島県阿南市の取組では、小学校どうしの連携のほか、中学校の英語の先生が小学校高学年で、英語を教えるといった連携を進めている。
	中学校の先生が小学校の授業を受け持つ場合、免許は必要なのか。	各担任が単独で行う場合は免許が必要であるが、TT（※）の場合、免許がなくても行っている場合がある。文部科学省では、中学校の専門的な知識を小学校の高学年でも活かせるよう、教科担任制を検討しているところである。 ※TT（チームティーチング）：学級担当の教師が進める授業に、その教師とチームを組む他の教師が入り、生徒の習熟度などに合わせて担当教師を助力しつつ行う授業の形態。
	今後の見通しとして文科省から高学年で専科を進めていきたいということを知っている。各学校に配置されている先生方の数は増える見通しなのか。	佐渡に3校勤務という形態が特別に入っている状況もある。必要なものは県に要求していくということもあるし、どんな形であれば実現できるか検討している段階である。
	佐渡市とすれば、佐渡市学校間連携プラン（案）を進めるという理解でよいか。	まず統合できるところは統合が基本だと考えている。地理的条件により統合ができないところは、学校間連携を考えていきたい。地域座談会で市民の皆様からいただいたご意見も踏まえながら、今後、検討懇談会で検討を進めていく形となる。

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	<p>統廃合・連携するにあたって、中学校の先生が小学校にきて授業を教えることに対して子ども達がどう思うか。不登校などいろいろな問題が全国的に広がってきており、佐渡も特別ではない。子ども達が授業を受けられる、友だちと遊べる、地域と一緒に育っていく、そういう観点において計画を立てていただきたい。</p>	<p>国の法律で教員の定員が決まっているため、小規模校にもたくさんの教員を配置するといった地域の方々が望むような教員の配置ができない現状がある。子ども達の環境を良くするためにはどうしたら良いかを第1に、地域の方々とともに検討していきたい。</p>
	<p>だいたい人数がどれ位だったら、小規模中学校どうしの合同授業といった形になるのか知りたい。学級数の推移と推計が示されている。地域の意見も聞くかと思うが、相川と高千で中学校間の連携による合同授業を行う可能性があるのか。</p>	<p>国と県では小・中学校とも12学級以上18学級以下を標準としている。基本的な考えとして、中学校はクラス替えができる規模にしていきたいと考えているが、お子さんにとって統合と学校間連携とどちらが良いのか、地域も含めしっかりお考えいただきたいと思っている。</p>
	<p>テレビ会議システムを活用した遠隔授業で、例えば教室に入れなくても、近くの図書室や保健室といったところでも授業を受けられるような環境整備をしていただきたい。</p>	<p>遠隔授業システムの整備を進めているところである。不登校や特別支援学級を含め、多くの学校で遠隔授業が活用できるのではないかと考えている。</p>
	<p>自分の学校の説明を聞くのとは違って佐渡の全体的な説明は少し難しい気がした。</p>	<p>どういった環境であれば、より良い教育が子ども達にできるのかを地域座談会を通じて考えていただきたいと思っている。</p>
羽茂	<p>子ども達が今何を思っているか、何を考えているか、この先どうしたいかということも参考のために聞いてもいいのではないか。</p>	<p>保護者アンケートの中で、統合する場合に心配な点を調査したが、親御さんばかりではなく、子ども達にとっても心配な点であると捉えている。統合校の子ども達にアンケートを取った結果、「統合して良かった」という反面「学校が無くなり少し寂しい」という側面もあったが、多くの子ども達にとっては新しい学校が自分の学校になるということも1つあるので、ご理解いただきたい。</p>

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	佐渡は地域的に類似している地域はないから教育も特区を作っていただくとうり易いところがあるのではないかと。	各学校では学区を設定しており、特別に優秀な学校を作る状況ではないと思っている。子ども達にとって自分の夢を持ったり、自分の経験をしたり、社会性や集団性を身に付けるうえで、教育環境が一番だと考えている。その中で僕は勉強にいきたい、私はスポーツでいきたいという子どもがたくさん出て来ることを期待したいと思っている。
	今回の新たな統合計画で、「学校再編 学校間連携（イメージ図）」が一番の肝なのか。	学校間連携のイメージを地域の方々にご理解いただけるのであれば、地理的条件により統合が困難な場合は、子ども達の能力の育成を図れるのではないかと考えている。免許外教科担任や複式学級をできるだけ解消するにはどうしたら良いか、皆さんと一緒に考えていきたい。
	特色ある学校づくりの対象は、佐渡全体に関わるものなのか。	どうしても統合できない地理的な条件がある場合は、学校間連携も考えていきたいと思っている。小学校は4km、中学校が6kmという距離的な目安があり、スクールバスを出した場合に1時間という基準もあるので、その辺も考慮していただきたいと思っている。チェーンスクールにもいろいろなパターンが考えられ、子ども達の能力の育成のため、どのような形に持っていくか、皆さんと一緒に考えていく必要があると思っている。
	統合を南部地区で進めていくのか、チェーンスクールを進めていくのか、この地区では一体どういうふうにしていくのか今は言えないという説明だったが、それだと未来も描けない。チェーンスクールを導入するのであれば、統合しないで進んでいくと捉えたが、その考え方で合っているのか。	

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	その地域の連携とか、学校と地域の連携とかを本当に深く考えるようであれば、統合ありきで話は進めてはいけない。統合はできれば避けたいと思っている。	学校があっても児童生徒の数がどんどん少なくなっていくという現状がある。最近の統合校でも、統合前には地域の人やPTAの人、特定の人しか活動に協力してくれないといった現象も出てきている。現在、学校運営協議会や学校地域協働本部を配置し、学校と地域を結びつけようという活動をしている。学校や地域によって温度差があることも感じているが、地域が元気でない学校も上手くいかないというのも事実である。またご意見を承りたいと思う。
	計画期間のうち、前期に何をやるか、後期に何をやるか、細かい計画があれば示してほしい。	地域座談会で市民の皆様からいただいた意見も参考に、検討懇談会で具体的な枠組みをこれから検討していく予定である。
	前期・後期に分けた理由は何か。令和4年から始まっていくという理解でよいか。	早急に統合を進めなければいけないところ、順次協議を重ねながら進めなければいけないところ、そういった取組の順位、順序を前期と後期に分け、組み立てていきたいという考え方である。基本的に令和4年度以降に個別に協議に入っていくことを想定している。
	スポーツ庁の部活動改編に、令和5年度から学校から部活動を離して地域に移行するよう進めていくというタイムスケジュールが出た。学校から離れた部活動、地域の運営の部活動、学校をまたいだ部活動ということになるので、話が違ふということがないよう、こちらの方の情報も出していただきたい。	スポーツクラブが多く存在する都市部と進行具合が違ってくるので、通知が出たから部活を止めるということにはならないと思う。また通知の中には教員が積極的に関わってほしいという文言もあるため、地域と一緒にどんな形でスポーツ活動ができるか十分に検討していく必要があると思う。
	具体的な計画案はいつできるのか。	まず地域座談会で計画の考え方を市民の皆様にお伝えし、そこでいただいた意見も参考に検討懇談会で素案を作成していく。令和3年2月から4月頃にかけて、市民説明会やパブリックコメントを実施した後、検討懇談会から教育委員会に計画案を提言する予定である。

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	子どもの数が少なくても教員数を減らしていただきたくない。	国の法律で教員の定数が決まっているため、上手に教育資源を使って授業したり、子ども達の能力の育成が図られるよう、より良い教育環境を出来るだけ整備していきたい。
	島留学とか移住とか、増やす策を並行して一緒に検討、行動させていただけるとありがたい。	地域が元気になるような取組に対し佐渡市全体で支援していきたい。そのため地域の皆様のご協力を引き続きお願いしたい。
	夜間に保育園の保護者が話しを聞くのは無理なため、説明をする、聞いてもらえる時間とか段階をもっと丁寧にやっていただきたい。	今後、しっかりと情報をお伝えして、ご意見をたくさんいただけるように進めていきたい。
	免許外指導等、小規模で残っていった時に教育の質がどれだけ担保されていくのか。担保されないのであれば、私たちが子ども達に選択できることを、もう一度考え直さなければいけない。	
	具体的なイメージ図を今後、保育園の保護者とかに説明するときに提示していただきたい。	
メール 電話等	<p>現在から未来の視点だけではなく、過去も踏まえて未来の施策につなげてほしい（過去：賑わいがあり、集落に活気があった。現在：人口減少により、寂しくなり限界集落が増加。未来：合併しか選択肢がないのか。コロナもある）。</p> <p>総括事務主幹は佐渡に複数人配置されることはまずないと思う。あくまでもモデル図であれば構わないが、最低限2名を確保したい意図があれば見直していただければと思う。近年、小中学校は多忙化解消が重要課題となっている。配置されるであろう教職員数にも目を向けて検討を進めていただければと思う。</p>	検討する。

今後の小・中学校の教育環境整備と再編に関するご意見と市の回答（要旨）

会場	ご意見	市の回答
	<p>学校施設長寿命化計画の直近10年の施設整備計画を踏まえ、素案の作成を進めているところだと認識している。平成25年に畑野小が統合し、当時の給食センターに隣接する形で新校舎が建設された。その結果、形状が不自然に曲がっており、順序が逆であれば畑野小は利便性に優れた校舎とすることができたのではないかと感じている。給食センターの跡地も地域や学校の意見に耳を傾けることで、今の駐車場より良い活用方法が見いだせたのではないかと感じている。市役所各課と連携を密にし、無駄が生じないよう地域住民が納得できるよう検討を進めていただけたらと思う。</p>	(同上)
	<p>学校に関する改革は、保護者の皆さんは関心が高いことは当然のことだが、特に急速に進む少子化の中、環境整備とはいえ、単に建物や生徒の統合という視点だけでなく、学問の質の向上や豊かな心を育てる環境づくりには、地域と学校のつながりを密にすることも大切ではないかと感じた。</p>	
	<p>今までのような地域、学校、何より子ども達にダメージを与える方策は選択すべきではないと感じている。今、各学校でコミュニティ・スクールが始動していると思うが、現在の「困り」の内容をその組織に投げかけ、1つの切り口として採用を検討するような方向を期待する。</p>	
	<p>行政を横断する学校施設利用について、学校施設を教育委員会が全部見るのではなく、防災等も含めた上での検討が必要だと思う。</p>	